

はじめに

和歌山県環境衛生研究センターは、本県の環境及び保健行政を科学的・技術的に支える中核試験研究機関として、試験・検査、調査研究業務や技術指導・研修及び情報の収集・解析・発信を行うほか、危機事象発生の際に迅速な対応ができるよう日々業務を行っています。

当センターは建築後 50 年以上を経て老朽化したことに加えて、新型コロナウイルス感染症の発生を契機に健康危機管理体制の整備推進（検査機能の強化）を図る必要が生じ、令和 5 年度から移設整備を進めてきました。昨年末によく新施設が完成し、本年 4 月から業務を開始しています。新施設では感染症分析用の高度安全実験室（P3）の増床や、目的別に検査室を細分化・区画化するなどハード面の機能強化が図られました。一方のソフト面では、次の感染症危機に備えて研究職 2 名を増員したほか、指揮系統を明確化し迅速な対応や運営の効率化が図られる組織体制としました。

今後も引き続き、健康並びに環境保全・公害防止に係る危機事象発生時に迅速・的確な対策がとれるよう平時の取組みを進めるとともに、行政課題の解決に資する調査研究や、国をはじめ他機関等と連携した共同研究や情報発信機能の強化に努め、県民が健康で安心して暮らせる快適な生活環境の実現に寄与してまいります。

ここに、令和 6 年度の業務・業績を取りまとめました。関係者の皆様には御高覧いただき、尚一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 1 2 月

和歌山県環境衛生研究センター

所長 村上 豪